

なんだ・かんだ

◆ 原発再稼働 ◆

今月の26日に東京電力柏崎刈羽原子力発電所6号機が定期検査で運転を停止し、東電の保有する原発17基すべてが止まり、今後「原発ゼロ」の状態になります。(日本全体でも残るは北海道の泊原発1基のみ、これもこの5月で停止が決まっています。)東電管内のこの夏の最大電力供給量は5193万KWになるそうです。(原発が2基稼働していた昨年と比べると、5%ほど少なくなるという事です。)

昨年の夏の最大電力需要は4922万KW。計算上は、約5%余裕があることとなります。ただこの数字は、経産省から、制裁金付きの「電力使用制限令」が出され、電力使用量15%削減という事で、製造工場は平日休暇の土日稼働をはじめとする大変な節電努力をした結果の数字です。

今年この制限令が出されず、猛暑の年となったとすると10%以上の供給不足となるそうです。原発依存度の高い関西電力管内では、20%近くも不足する予想が立てられています。

電力不足に加え電気料金値上げの問題もあり、電力会社が電気の安定供給と、収支改善を図る為には、原発の再稼働が必須条件です。

静岡県内に唯一の原発、浜岡原子力発電所では、発電所敷地海側に設置する防波壁については、発電所前面の砂丘堤防高さ(T. P. (東京湾平均海面)+10~15m)に、福島第一原子力発電所での津波遡上高(T. P. +15m程度)も考慮し、防波壁の高さをT. P. +18mとして、莫大な費用をかけて急ピッチで工事をしています。

(尚、浜岡原子力発電所における津波遡上高については、東海・東南海・南海地震の3連動の地震等を検討し、T. P. +8m程度と想定。東北地方太平洋沖地震と同規模のマグニチュード9の地震が発生した場合の津波モデルを仮想的に作成し試算した結果からは、T. P. +10m程度との結果を得ての対策だそうです。)

また、発電機も高台へ設置したり、今まで、予備を準備していたのを、予備の予備まで準備し設置しているようです。

恐らく他の原発でも同様に再稼働を前提とした対策が取られ、多くのお金がつぎ込まれていると思います。しかしながら、再稼働には地元自治体の同意という高いハードルがあり、実現されるかはなほ疑問です。

多くの人が、長期的には原発は全廃し、代替として自然エネルギーへの移行を希望していると思いますが、それまでの過程の中でコストも考えた上で、不足する電力をどうするか結論が出せずにいるわけです。

私は、原発の地元住民理解を何とか得て、電力の安定供給のため最低限のそして、安全対策がしっかりとれた原発の稼働はやむなし、そして原発解体も含め、計画的なエネルギー転換を図るしかないと思います。

最後に、原発についての心配は国内だけではなくありません。お隣韓国の原発は稼働中20基、建設中7基、計画中4基。中国では内陸は別として、日本海沿いに稼働中が3基、建設中が3基、計画中が19基もあります。日本で原発が無くなっても、近隣の原発で事故があった場合は日本への放射能の影響は必至です。私には中国が特に心配です。事故の際真実を報道するとは思えません。



■ 足場の安全管理 ■

先日埼玉で足場が倒壊し、この春小学校入学予定の園児が亡くなるといういたましい事故が起きました。原因は部分足場で、10mという高さにもかかわらず、建物への繋がりをしっかり取っていなかったことと、強風にもかかわらず、養生ネットを張りっぱなしであった事のようにです。

この記事が掲載された後、当社でも足場の安全管理について、足場事故で最も事故の多い、落下・墜落事故と共に、今回の事故のように第三者災害につながる可能性のある足場の倒壊は絶対にあってははいけません。朝礼で話をすると共に、安全委員会で再確認をしました。



感謝の年度末

「暑さ寒さも彼岸まで」と昔から言われていますが、どうも今年ばかりはこれが当てはまらないようです。雨の日が多く、晴れても気温が上がらず、風が冷たいので、春を感じる事ができません。春を感じるまでもう少し時間がかかりそうです。

さて、3月も後数日で終わります。昨年の4月今期のスタートは、あの震災の直後で、一体この1年はどうなってしまうのだろうか、不安がいっぱいのスタートで、今年度ほど先の見えない年はありませんでした。

特に計画停電や自粛による買い控えで、消費が冷え込む方向へ向かい、そして折角注文を頂いても、東北地方の部品製造会社が被災して組立が出来ず、製品がないということもありました。

ところが、ふたを開けてみるとどうでしょう。目標を下方修正したとはいえ、4月以降、産業資材の販売は好調で、毎月ほぼ予算に近い売上げを計上し続けました。さすがに、設備投資に関する建築工事関係は、お盆休みまで厳しい状況が続きましたが、徐々に注文も増え、途中、タイの洪水やヨーロッパの金融危機等もありましたが、何とかこの年度末を大過なく迎えることが出来ました。お客様に感謝、社員に感謝の1年でした。

代表取締役 服部敏一郎

チキリについて⑦

● 塗装工事 ●

現在当社では、建築全般の工事を行っていますが、中でも塗装工事の割合が大変高く、工事全般の半分近くになります。

元々、塗料販売をしていたこともあり、産業資材販売をしていたお客様から、ちょっとした塗装のお仕事を頂くようになり、塗装屋さん丸投げして請け負ったのが始まりです。(丸投げは建設業法条違反ですが、当時はそんなことも知らずに請けていました。)

工場関係のお客様が多かったこともあり、外壁塗装よりもまず床の塗装を材料メーカーさんとタイアップして拡販に努めました。現場の5S運動や静電気対策で工場の床を塗装するというニーズが出てきたことも幸いして、新規ユーザー開拓の先鋒となって多くのお客様を獲得してまいりました。

同時に外壁塗装の施工数も増える中、塗料の販売もしている当社としては、他社との差別化として、依然何回かご紹介させていただいた遮熱塗装の様な機能性塗料を使った塗装を武器に市場開拓してまいりました。

また、長い間法人のお客様中心だったのですが、新聞の折込みチラシを打ったりしながら、徐々に個人向けの戸建住宅にも進出し、今では年間数十棟の住宅の外壁塗装工事を請けております。



本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方に付きましては、その旨ご一報頂きたいと思っております。次回からの発送を中止させていただきます。N

・ 株式会社チキリ

静岡県駿東郡清水町卸団地 73

Tel 055-971-9610 Fax 055-973-1534

E-mail gen@chikiri.com URL http://www.chikiri.com/